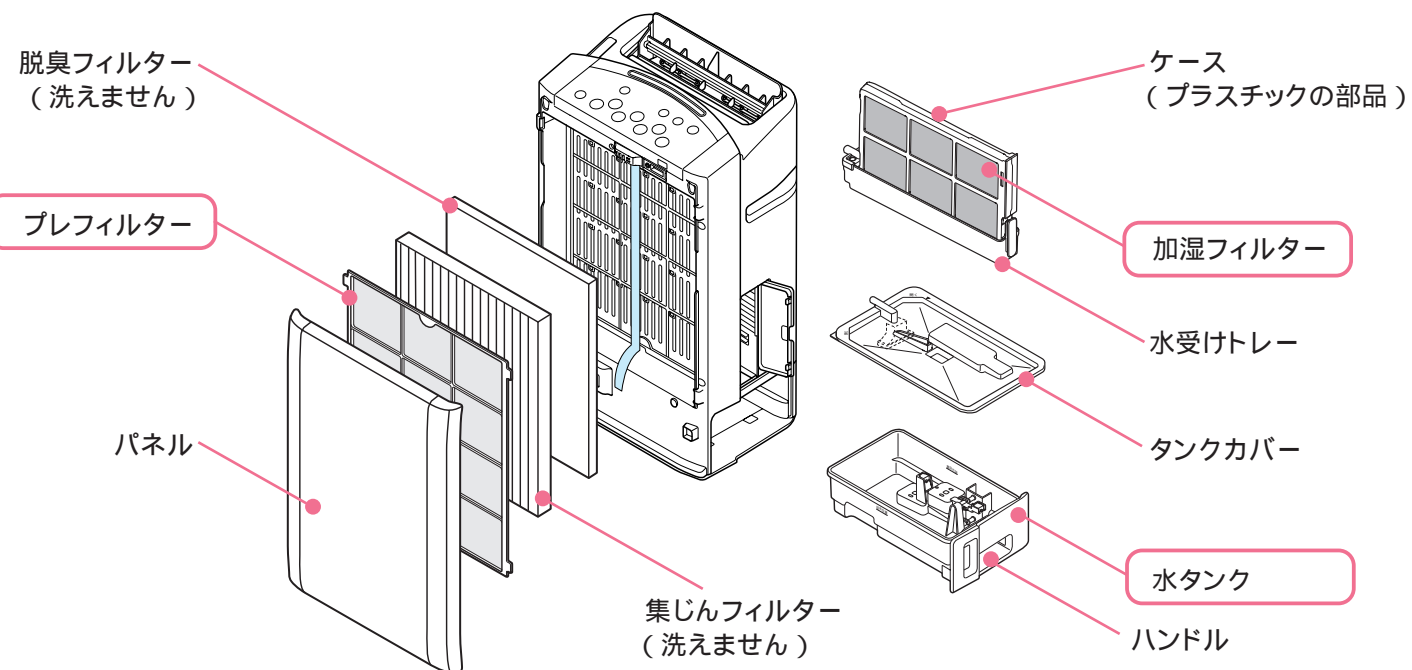


基本のお手入れ

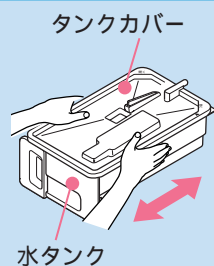


お手入れするときは

- 電源が入っている場合は **電源切入** ボタンを押す
ファンの停止を確認してください。「電源切」後もファンが動作している場合があります。(この間はクリーンモニターが紫色の点滅をします)
- 電源プラグを抜く

水タンク (毎日) → P.44

必ず1日1回は新しい水道水に交換してください。
タンクに水が残っている場合は捨ててください。
水道水を少量入れ、タンクカバーと水タンクをしっかりと押さえながら振り洗いをしてください。(水を入れ換えて2~3回)

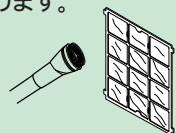


- ご注意**
- 洗剤(台所用、洗濯用など)は使用しないでください。
 - 水タンクを本体から取り外す前に、本体操作部の **電源切入** ボタンで電源を切ってください。
 - 水タンクの中には、フロートスイッチが入っています。無理な力が加わらないよう静かに振り洗いをしてください。

プレフィルター (約1ヶ月に1回) → P.47

表面のほこりを取り除きます。汚れがひどい場合は、水掃除機などでほこりを吸い取ります。

洗った後は、プレフィルターを乾燥させます。陰干しで乾燥してください。



- ご注意**
- 濡れたままでは使用しないでください。吹出口から、水滴が吹き出したり、脱臭効果が低下し、異臭の原因になります。
 - ドライヤー、暖房器具などで乾燥しないでください。変形などの原因になります。

加湿フィルター (約1ヶ月に1回) → P.37~39

- ケースから外さないでください。(水受けトレイからは外してください)
- 水、ぬるま湯または台所用中性洗剤を溶かした水に、30分以上つけ置き洗いをする
加湿フィルターはケースから外さないでください。
台所用中性洗剤に記載の使用法、注意書きに従ってご使用ください。(台所用中性洗剤以外は使用しないでください)
 - 新しい水に入れ換え、加湿フィルターをゆすりながらすすぎをします(2~3回繰り返す)
台所用中性洗剤をご使用の場合は、洗剤成分が残らないように、すすぎ洗いをしてください。
 - 軽く振って水を切る
(水がしたたり落ちない程度)

日立 **多機能** 空気清浄機 クリエア7 EP-DV1000

カンタンご使用ガイド

詳しくは「取扱説明書」をご覧ください。
このマークは「取扱説明書」の記載ページです。

本体操作ボタンとはたらき・表示

すべての運転モードにおいて、空気清浄機能が働いています。

ダイレクトに選べる「7つの自動運転モード」 運転中のモードを光でお知らせします。 → P.22	空清 お部屋の空気に合わせて自動で風量を調節し、集じん・脱臭を行います。 → P.22	強脱臭 最初の1分間、大風量のターボ運転を行い、気になるニオイをすばやく脱臭します。 → P.22	加湿 清浄された空気による加湿で、乾燥したお部屋の湿度を高めます。ヒーターを使わず、加湿すぎない気化式を採用しました。 → P.23
肌保湿 お部屋の湿度を高めの約60%にコントロール。冬季など乾燥しがちなお肌にうるおいを与えます。 → P.23	除湿 梅雨や降雪期などに湿った空気を除湿し、乾いたきれいな空気をお部屋に送ります。低温でも除湿力が安定するデシカント式を採用しています。 → P.23	衣類乾燥 お部屋の中に干した衣類を大風量のきれいな風ですばやく乾燥します。 → P.23	結露セーブ 暖房時には加湿運転。その後、就寝等で暖房を切ると温度が下がると湿度は上がります。湿度が上がると自動で除湿運転に切り換わり、お部屋の結露の発生量を抑えます。 → P.26

リセット ボタン
「加湿フィルターお手入れ」「水交換」点灯時、表示をリセットするときに操作します。→ P.37~41

チャイルドロック ボタン (3秒長押し)
誤操作を防止したいときに操作します。→ P.34

加湿フィルターお手入れ・水交換表示
加湿フィルターのお手入れ時期をお知らせします。また、水タンクの水交換が必要なお知らせします。→ P.37~40

満水・給水・タンクなし表示
水タンクの状態をお知らせします。→ P.41~44

チャイルドロック表示
チャイルドロックを設定したときに点灯します。→ P.34

スイング表示
自動ルーバーが動いているときに点灯します。→ P.32

湿度モニター
運転中、お部屋の湿度を表示します。あくまでも目安です。→ P.35

タイマー表示
タイマー運転(切タイマー)を設定したときに点灯します。→ P.33

風量表示
運転中の風量を表示します。→ P.28, 31

クリーンモニター
ニオイセンサー・ダストセンサーが感知した空気の汚れ度合いを色の变化でお知らせします。→ P.35

風量ボタン
風量を変えたいときに操作します。→ P.28

電源切/入 ボタン
電源を入切するときに、運転停止するときに操作します。→ P.20~28

アレルオフイオンボタン
アレルオフイオンの設定、解除するときに操作します。→ P.34

リモコン受光部
リモコン信号を受光します。

3つの「べんりモード」

- べんり**
- 室内循環** → P.27~28
自動ルーバーで、お部屋の空気を循環させ、冷暖房時の温度ムラを低減します。
- セルフ乾燥** → P.27~28
本体内部に風を循環させて自動で乾燥します。

スポット清風 → P.27~28
正面に向かってきれいな空気を送風。お風呂上がりやアイロンがけのときの扇風機代わりに使えます。

運転モードを自動で選択「まかせてスタート」

まかせてスタート (1秒押し、黄色点灯)

空清 → P.20

乾燥している時は **加湿運転** | 適度な時は **空清運転** | 湿度が高い時は **除湿運転**

加湿・空清 ← 湿度低い | 湿度高い → 除湿・空清

「まかせてスタート」ボタンご使用時には、タンクに新しい水を入れてください。運転開始時に選択された運転内容は、お部屋の空気の状態が変化しても切り換わりません。

お困りのときは

修理を依頼される前に 次の点をもう一度確認してください。

現象	確認するところ	直しかた
風が出ない または、 電源が入らない	本体「電源 切/入」ボタンで電源を入れましたか。 水タンクは正しく本体に取り付けられていますか。 加湿フィルターは正しく本体に取り付けられていますか。	<ul style="list-style-type: none"> ・「電源 切/入」ボタンを押して電源を入れます。 ・正しく本体に取り付けてください。 ・正しく本体に取り付けてください。
リモコンで運転できない	「まかせてスタート」、除湿、衣類乾燥、結露セーブのいずれかのモードで運転していませんか。	<ul style="list-style-type: none"> ・「まかせてスタート」、除湿、衣類乾燥、結露セーブ以外のボタンを押してください。 → P.4
加湿しない	給水ランプが点灯していませんか。 水交換ランプが点灯していませんか。 お手入れランプが点灯していませんか。	<ul style="list-style-type: none"> ・水タンクに水を入れてください。 → P.43、44 ・水タンクの水を交換してください。 → P.39～41 ・「お手入れのしかた」の「加湿フィルターお手入れランプ点灯のとき」をご覧ください。加湿フィルターを清掃してください。 → P.37～39
除湿しない	満水ランプが点灯していませんか。 水タンクは正しく本体に取り付けられていますか。	<ul style="list-style-type: none"> ・水タンクの水を捨ててください。 → P.41、42 ・正しく本体に取り付けてください。
水交換ランプが消えない	水交換終了後にリセットボタンを押しましたか。	<ul style="list-style-type: none"> ・リセットボタンを押してください。 → P.41
お手入れランプが消えない	お手入れ終了後にリセットボタンを押しましたか。	<ul style="list-style-type: none"> ・リセットボタンを押してください。 → P.39

こんなときは故障ではありません

現象	理由
「まかせてスタート(加湿)」、加湿運転、肌保湿運転、結露セーブ運転中に、ときどき「ウィーン」という音がする	数分から十数分に一度、数秒間水タンクから水を吸い上げているときの音です。異常ではありません。
「まかせてスタート(除湿)」、除湿運転、衣類乾燥運転、結露セーブ運転時に、本体背面が熱くなる 吹き出し口から暖かい風が出てくる	ヒーターを使用して除湿を行なうためです。異常ではありません。
「まかせてスタート(除湿)」、除湿運転、衣類乾燥運転、結露セーブ運転時に、油が焦げたようなにおいがする	ヒーターに付着している油分が揮発するためです。しばらく運転するとおいはなくなります。異常ではありません。
本体「電源 切/入」ボタンで停止しても、送風ファンがしばらく止まらず、クリーンモニターが点滅している	本体内部の温度上昇を防ぐため、しばらくの間、送風ファンが回り続けます。その後、自動で電源が切れます。故障ではありません。
本体「電源 切/入」ボタンで停止後、送風ファンが動いている間、本体操作、リモコン操作ができない	本体内部の冷却を優先しているためです。故障ではありません。
湿度モニターの表示値と、お部屋の湿度計の表示が異なる	湿度モニターに表示される湿度は目安です。また、室内の環境差により表示が異なる場合があります。

運転を始める

本体操作で運転する

→ P.22 ~ 28

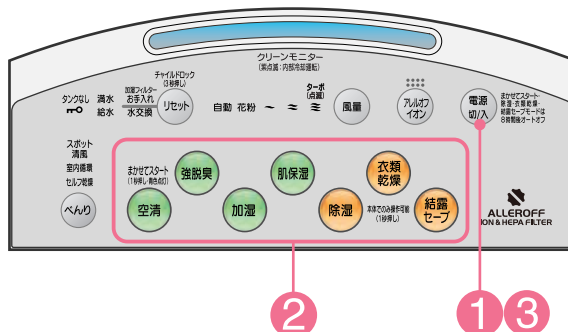
- 電源 切り** ボタンを押す

電源が入って、運転操作待ちの状態です。
何も操作しないと、約10分で電源が自動で切れます。
(表示が消えます)
- 運転したいモードのボタンのいずれかを押す

1秒以上長押ししてください。

運転中はすべての運転モードにおいて、空気清浄機能が働いています。
- 運転を停止するときは **電源 切り** ボタンを押す

再度、運転するときは、① から操作します。



「まかせてスタート」で運転する

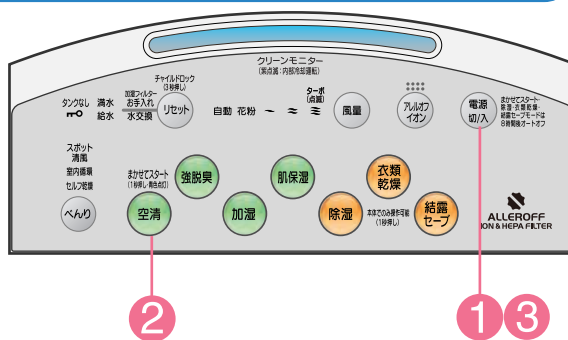
→ P.20, 21

- 電源 切り** ボタンを押す

電源が入って、運転操作待ちの状態です。
何も操作しないと、約10分で電源が自動で切れます。
(表示が消えます)
- 空清** ボタンを1秒以上長押しする

「空清」ボタンが青色に点灯します。
お部屋の空気の状態をセンサーが感知して、お部屋の状態に適した運転を選び、「空清」(青色)または「空清」(青色) + 「加湿」または「空清」(青色) + 「除湿」のボタンが点灯し、運転が自動で始まります。
- 運転を停止するときは **電源 切り** ボタンを押す

再度、運転するときは、① から操作します。



リモコン操作で運転する

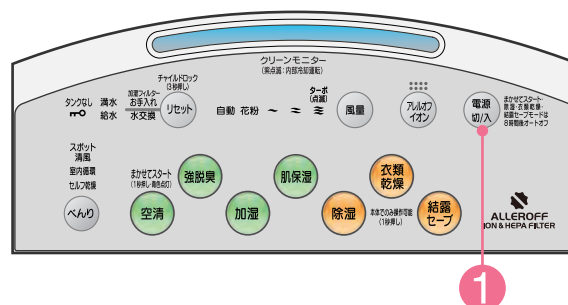
→ P.29 ~ 33

お知らせ 「まかせてスタート」、除湿、衣類乾燥、結露セーブは、ヒーターを使用しますので、安全のため、ふいにスイッチが入らないように、リモコンでは操作できません。

- 本体の **電源 切り** ボタンを押す

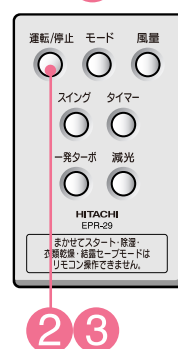
電源が入って、運転操作待ちの状態です。
何も操作しないと、約10分で電源が自動で切れます。
(表示が消えます)
- リモコンの **運転/停止** ボタンを押す

お知らせ
前回の運転モードが「まかせてスタート」「除湿」「衣類乾燥」「結露セーブ」だった場合は、リモコンでは操作できません。
本体で操作してください。
- 運転を停止するときは **運転/停止** ボタンを押す



何も操作しないと、約10分でクリーンモニター以外は消灯します。
このとき **運転/停止** ボタンを押すと、ふたたび運転を行ないます。

何も操作しないと、約8時間で電源が自動で切れ、すべての表示が消えます。再度、運転するときは① から操作します。



運転前の準備

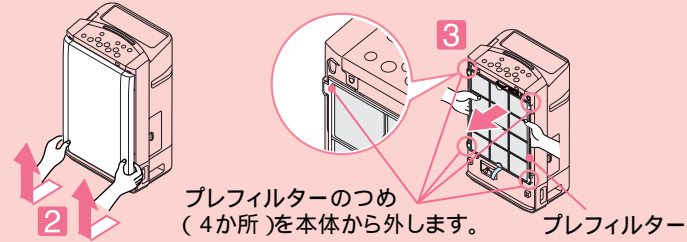
ご注意 キャスターによる移動は、転倒防止のためゆっくり動かしてしてください。また、移動は横方向のみです。ポリ袋に入れたままフィルターをセットしても、清浄効果は得られません。また故障の原因になります。本体を倒したり、傾けたりしないでください。

フィルターを本体にセットする

→ P.11 ~ 12

1 パネルを取り外す

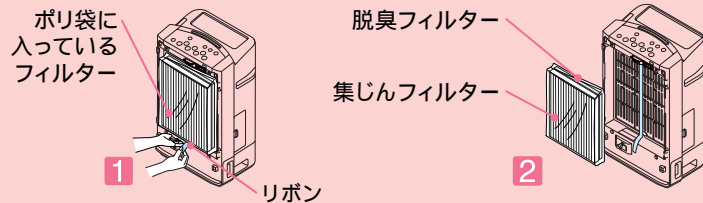
- 1 本体を水平で安定した場所に置きます。
- 2 パネルの下側(2か所)に指をかけて、ゆっくり手前に引き、上側へ少しずらして取り外します。
- 3 プレフィルターを取り外します。



2 フィルターを取り外す

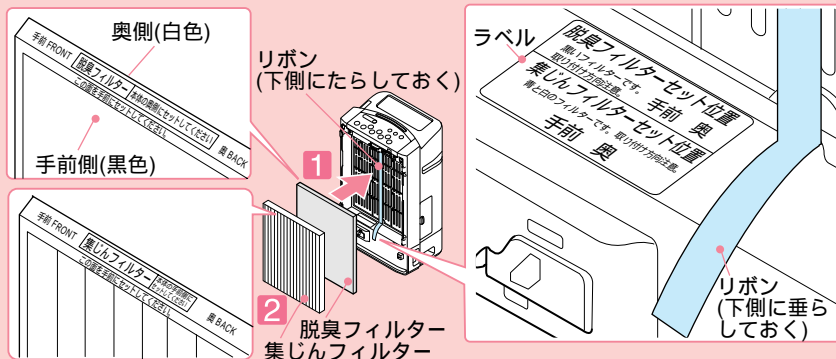
(集じん用と脱臭用があります)

- 1 本体内からポリ袋に入っているフィルターを取り外します。
リボンを静かに引いてください。
- 2 フィルターをポリ袋から取り出します。



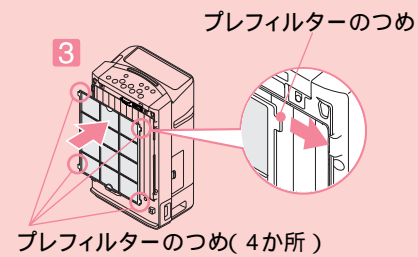
3 フィルターを本体に取り付ける

- 1 脱臭フィルターをポリ袋から取り出し、本体に取り付けます。
リボンで脱臭フィルターの奥側にして、ラベル(脱臭フィルターセット位置)がかくれるように、奥までセットしてください。(リボンの先端は下側に垂らしておいてください)
- 2 集じんフィルターを本体に取り付けます。
ラベル(集じんフィルターセット位置)がかくれるように、奥までセットしてください。
- 3 プレフィルターを本体に取り付けます。



ご注意

脱臭フィルターは必ずポリ袋から取り出してください。フィルター前面は、布や紙などでふさがらないでください。集じんフィルターも同様です。



4 パネルを本体に取り付ける

- 1 パネルの上側のつめ(2か所)を本体の差し込み穴に差し込みます。
- 2 パネル下部を静かに押して、カチッと音がするまで確実に閉じます。

5 加湿フィルターをセットした水受けトレイが本体に取り付けられているか確認する

加湿フィルターを取り付けないと運転できません。

水タンクの準備をする

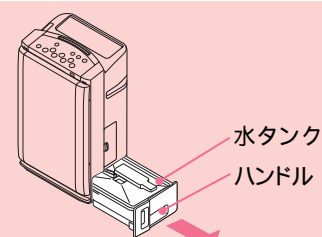
→ P.13

1 本体から水タンクを取り出す

水タンクのハンドルに手を掛けて、少し持ち上げながら静かに引き出します。

ご注意

本体から水タンクを取り出す際は、本体底面にキャスターが付いていますので、動かないように本体を押さえながら、静かに引き出してください。(キャスターにストッパーはありません)

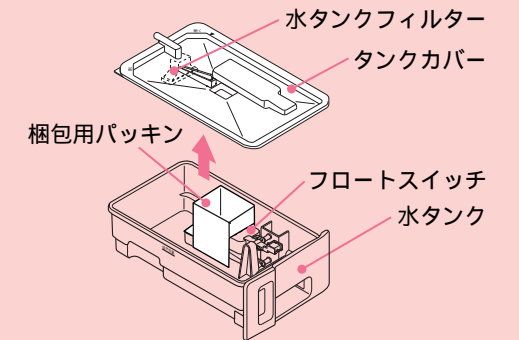


2 タンクカバーを外して、梱包用パッキンを取り外す

初めてお使いになるときは、必ず行なってください。

注意

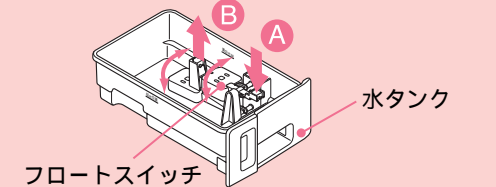
フロートスイッチに無理な力が加わらないようにしてください。破損すると「満水」を検出できなくなり、水漏れの原因になります。梱包用パッキンは必ず取り外してください。フロートスイッチが動かないと「満水」を検出できなくなり、水漏れの原因になります。



3 フロートスイッチの動作を確認する

シーソーのように、軽く動くことを確認してください。

A を軽く押しながら、B を軽くつまみ上げてください。

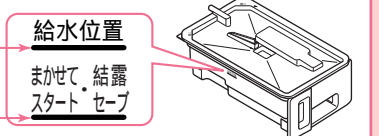


4 水タンクを準備します

運転モードごとに、準備の内容が異なります。

空清 強脱臭 除湿 衣類乾燥	「まかせてスタート」 加湿 肌保湿 結露セーブ
そのままご使用できます。 各運転操作の説明をご覧ください。 → P.22 → P.29	水タンクに水を入れます。

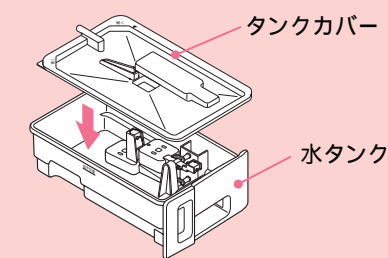
加湿運転、肌保湿運転のときはここまで(上限)
 「まかせてスタート」、結露セーブ運転のときはここまで(上限)



注意

給水時の上限を越えると、水漏れの原因になります。「給水位置」(加湿運転、肌保湿運転時の上限)まで水を入れた状態で、「まかせてスタート」、結露セーブ運転は行わないでください。除湿運転を行なう場合があるので、水があふれるときがあり、水漏れの原因になります。「まかせてスタート」、除湿、衣類乾燥、結露セーブ運転で溜まった水は、使わないで必ず捨ててください。雑菌が繁殖しやすいため、健康を害する恐れがあります。

5 タンクカバーを取り付ける

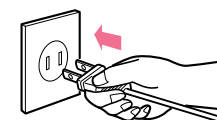


6 水タンクを本体に取り付ける

水タンクがないと運転できません。

運転を始める前に

1 電源プラグをコンセントに確実に差し込む



2 リモコンに乾電池(単4形2個)を入れる

警告

定格15A以上・交流100Vのコンセントを単独で使うほかの器具と併用すると分岐コンセントが異常発熱して、発火することがあります。

電源プラグの抜き差しにより、運転を停止しない火災・感電・故障の原因になります。本体内部の温度上昇を防ぐため、本体操作部の電源切で運転を停止したあとも、しばらくの間は送風ファンが回ります。送風ファンが止まってから、電源プラグを抜いてください。